

慶應義塾大学湘南藤沢学会 シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金 報告書

作成: 小口瑛子、玉井隆

芹澤学(総合政策学部4年)
玉井隆(総合政策学部4年)
東浦弘宜(環境情報学部4年)
小口瑛子(総合政策学部2年)
佐々木順一(総合政策学部2年)

概要

慶應義塾大学SFCの学生と、ホーチミン市国家大学国際関係学部の学生によるワークショップを、3月8日、9日にホーチミン市において開催した。

ホーチミン市国家大学

教員 4名
博士課程 4名
学部生 30名

テーマ

成長と開発: 若手研究者からの視点 (Growth and Development: perspectives from the young generation)

スケジュール

14:00-14:05 オープニング

国際関係学部 Le Hong Hiep 氏より、ワークショップの趣旨説明とスピーチ

14:05-14:10 キーノートスピーチ

慶應義塾大学 梅垣理郎教授

14:10-14:55 プレゼンテーション[第1部]

The struggle under the policy of development in Philippine Mindanao

慶應義塾大学 東浦弘宜

"Doimoi" policy in Vietnam

ホーチミン市国家大学(学生3名)

14:55-15:40 プレゼンテーション[第2部]

Difficulty of recognize of the environmental problem for local people: comparing the people around Tonle Sap Lake in Cambodia with street people in Yaounde, Cameroon

慶應義塾大学 玉井隆

Impacts of upper Mekong dams on the lower Mekong region

ホーチミン市国家大学(学生3名)

14:55-15:40 プレゼンテーション[第3部]

Life after the Great Transformation

慶應義塾大学 上原和甫

Nation brand emerging as a key for nation

ホーチミン市国家大学(学生4名)

16:25-16:30 まとめ

ホーチミン市国家大学 Le Hong Hiep 氏によるスピーチ

目的

- (1) 両大学の関係の強化と協働の基盤作りを行う。
- (2) ナショナル、グローバルレベルにおける政策や政治経済社会的変化(マクロレベル)と、実際の生活の中での変化(ミクロレベル)に着目した、「成長と開発」をテーマとするプレゼンテーションを行う。その上でベトナム、日本の若手研究者・学生による調査報告と意見交換を行う。

場所

ホーチミン市国会大学内、ホーチミン市人文社会科学大学キャンパス

日時

3月8日、9日

※8日はホーチミン市国家大学教員、学生と打ち合わせ

参加者

慶應義塾大学

梅垣理郎(総合政策学部教授、政策メディア研究科研究委員)

Vu Le Tao Chi(政策メディア研究科博士課程)

上原和甫(政策メディア研究科博士課程)

内容

8日[打ち合わせ]

ホーチミン市国家大学教員5名、学生5名の計10名と、日本側教員、学生による自己紹介とワークショップの趣旨、スケジュールの確認を行った。同時に今後の両大学間でのワークショップや学生の交流を活発化させることを確認し、どのような活動が具体的に可能かを議論した。

9日[ワークショップ]

両大学の学部生、大学院生を中心に15分間のプレゼンテーションを両大学が行い、その後ディスカッションを行うという形式で行われた。各プレゼンテーションの内容は以下の通りである。

The struggle under the policy of development in Philippine Mindanao

1970年以降のフィリピン・ミンダナオ島を中心とする独立紛争が、米国の植民地政策に起因することを示した。問題解決の一つの方法として、政府による人々の生活への着目の必要性を挙げた。

“Doimoi” policy in Vietnam

ベトナムの経済成長に関して、ドイモイ政策前後を比較し、政策がベトナム経済もたらした影響について明らかにした。

Difficulty of recognize of the environmental problem for local people: comparing the people around Tonle Sap Lake in Cambodia with street people in Yaounde, Cameroon

地域住民にとって、環境「問題」を認識することがいかに困難であるかを、カメルーン・ヤウンデ市とカンボジア・トンレサップ湖の事例で比較し検討した。

Impacts of upper Mekong dams on the lower Mekong region

メコン川のダム建設が流域の住民にどのような影響を及ぼしたのかを検討した。一見メリットに見えることが、当該住民にとってはデメリットになりうるということに着目した。

Life after the Great Transformation

急速な経済的、社会的変化の只中にあるタイ北部の農

村において、住民がいかにして資源の獲得とその利用を行うのか、Yart sanit (close relative)に着目しながら明らかにした。

Nation brand emerging as a key for nation

オリンピックやワールドカップ、あるいは公私を問わず喧伝される様々な国の「ブランド」を事例に挙げながら、国家のイメージがその国の経済や社会に及ぼす影響について検討した。

成果と今後の課題

ワークショップでは予定終了時刻を大幅に遅れる程の盛んな意見交換が行われた。国外の学生との交流と意見交換の機会は多くなく、こうしたワークショップが両大学学生にとって極めて有意義なものとなった。今後はタイムテーブルの再検討を含めた、質と量ともに充実したワークショップの開催を行っていく。

また今後も継続してホーチミン市国家大学、もしくは慶応大学にて年1回以上のワークショップを行っていくこととなった。